

首都のど真ん中に居座る米軍基地—麻布ヘリポートは撤去を

米軍は約束通り青山公園を返せ!

撤去運動40年、港区で集会とデモ行進

東京都立青山公園の一部を不法占拠し続ける米軍麻布ヘリ基地の撤去を求める集会が4月18日、同公園で開かれ、大雨のなか80人が参加しました。主催は、港区労連などをつくる麻布米軍ヘリ基地撤去実行委員会。

主催者を代表してあいさつした川崎悟実行委員長は、「昨年、基地の一部返還が合意されたのは、40年間の撤去運動の成果だ。これを足がかりに、基地の返還へ運動を続けよう」と呼びかけました。

日本共産党から笠井亮衆院議員、富田なおき、港区議団が参加しました。笠井議員は、「首都のど真ん中に居座る米軍基地は、一日も早く撤去させよう。自衛隊イラク派兵に違憲判決が出され、憲法改悪に反対する世論も広がっている。憲法と平和、暮らしを大事にする政治に変えるため頑張ろう」と述べました。

参加者は集会後、「米軍は約束どおり基地を返せ」「六本木に基地はいらない」「憲法9条を守ろう」と声をあげて行進しました。実行委員会は集会に先立ち、外務省、防衛省、アメリカ大使館、東京都に対し、基地撤去と不法占拠部分の返還を要請しました。

鉄条網で囲まれた港区六本木の米軍麻布ヘリポート基地。後方の超高層ビルは六本木ヒルズ・森タワー。下の写真は、基地に飛来する米軍ヘリ



写真：麻布米軍ヘリ基地撤去実行委員会提供

米軍麻布ヘリ基地は、ヘリポートのほか、米軍の準機関紙「星条旗新聞」極東支社などの施設があります。基地には1日約3回の「定期便」が離着陸するほか、米軍の都合で早朝・深夜の飛行がおこなわれます。ヘリは低空で飛行するため、騒音・振動被害が出ています。



雨のなかデモ行進する富田なおきと笠井亮衆院議員



麻布米軍ヘリ基地撤去実行委員会のホームページから作成

米軍麻布ヘリ基地の経緯
米軍麻布ヘリ基地とその周辺は、もともと旧陸軍麻布三連隊の施設でした。敗戦後米軍が接收し、その後全面返還が決まり、約3分の2は返還されましたが、いまだに基地の部分は返還されていません。東京都は1963年、基地の箇所も含め公園をつくることを決めており、本来は基地全体が青山公園予定地です。1983年に、基地の下を通すトンネル工事をおこなうことになり、青山公園の一部が臨時のヘリポート用地として米軍に提供されました。ところが、米軍は、工事が終わったら戻すという協定を結んでいたにもかかわらず、協定に反してこの公園用地を使用し続けています。

住民の粘り強い運動のなか、昨年、米軍は不法占拠部分と同面積の別部分を返還することに合意しました。



日本共産党衆議院東京1区若者相談室長

富田なおき

事務所ニュース

4 2008.4.27

発行：富田なおき事務所

〒162-0065 新宿区住吉町11-25
TEL 03-3357-3392 FAX 03-3353-4912
E-mail:tomita-naoki@nifmail.jp

富田なおきのホームページ <http://tomita-naoki.web.officelive.com/>
(富田なおきのブログもホームページからご覧になれます)

国民の命綱・厚生年金病院を守れ！

全国の地元自治体・住民代表が国会要請



飯田橋駅の近くにある東京厚生年金病院



4月14日、湯布院厚生年金病院の地元・由布市長や同市議会議長などがよびかけ、全国10カ所の厚生年金病院の公的医療機関としての存続を求める国会・厚生労働省への要請がおこなわれました。富田なおきも、新宿区議のみなさんと一緒に参加しました（写真）。

全国に10ある厚生年金病院は、社会保険庁がもっている公的医療機関です。東京では、新宿区津久戸町に東京厚生年金病院があります。これとは別に、全国に53の社会保険病院があり（新宿区百人町に中央総合病院）、地域で欠かせない命綱としての役割を果たしています。ところが、社会保険庁が廃止されるため、これらの病院がどう存続するかが決まっています。与党は「整理機構」に一括して移管して、個別に売却・廃止を検討させる方向です。

新宿区では、公的病院としての存続を求める地域ぐるみの運動

新宿区では、3万を超す署名が集まるなど、地域ぐるみの運動が取り組まれてきました。今回の要望書にも、町会連合会の会長さんと区議38名のうち17名が超党派で名を連ねています。国会内で開かれた集会では、共産党と民主党の新宿区議や全国の参加者が次々と、地域になくしてはならない病院であり、「公的病院としての存続を」と訴えました。

厚生労働省への要請では、副大臣が、現在の医療危機を考えれば、厚生年金病院の機能を維持する必要がある、との見解を述べました。

住民運動の力が与党も揺り動かしていることを体感できた行動でした。これからも、地域医療を守るために、住民のみなさんと力をあわせて行動していきます！

東京労働局に要請

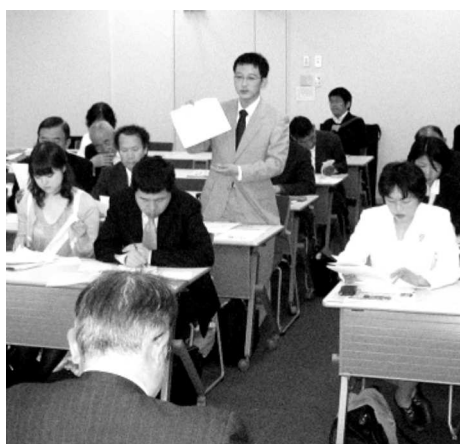
企業の無法行為にしっかり対処を

4月16日、日本共産党都委員会や民青同盟都委員会のみなさんと、厚生労働省の出先・東京労働局（千代田区）に、企業の無法行為にしっかりと対処するよう、要請しました。

「社会保険労務士の養成講座運営企業が約束を反故にし、退職金を払わない」など、相談を受けたり、地域労連に寄せられた18の実例を示し、これに対処するには監督行政の役割が大事であることを指摘しました。

1年間に監督官がどれだけ事業所を訪問しているかの統計では、オーストリア53%、ドイツ33%などに対して、日本はわずか6%。管内のすべての事業所を回るのに、10数年から20年かかるといわれています。

東京労働局管内で、相談が昨年だ



18の実例を示して、具体的な対応を要求しました

だけで31万件。しかし、監督官は全都でわずか150人です。9414件の立ち入り調査を行い、うち法令違反が74%もありました。

労働基準監察監督官は、何度も「限られた人員」と繰り返し、「長時間労働を抑制するため、厳正な指導をしていく」と答えました。

後期高齢者医療制度廃止へ全力！

「どうしてこんな制度をつくったのか！ これじゃあ、姥捨て山じゃないか！」——街頭で訴えると、怒りの声はとどまるところがありません。千代田区の高齢者センター前では短時間に70筆の署名が集まり、党の事務所にも続々と署名が寄せられています。

自民党内にも見直しを求める議員連盟が発足したことは、国民の怒りと批判の強さを示しています。根本からまちがっているこの制度を一日も早く廃止させるために、全力がんばります。



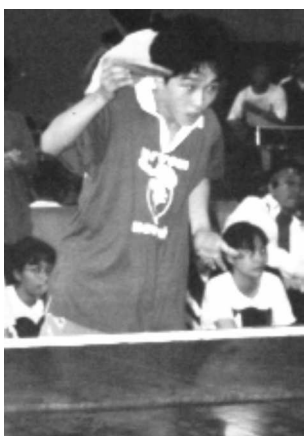
17日、御茶ノ水で飯島和子・千代田区議と

富田なおきの生いたち

小学校の時は身体が弱かったのですが、中学校では卓球部に入りました。家に帰ってからも、筋トレやジョギングで身体を鍛え、体力も人並みになりました。毎週おこなわれたマラソン大会で上位に入るようになり、クラス対抗の駅伝では選手にも選ばれました。

父の転勤で、中学1年生の10月に、南陽市から山形市へ転校。この機会に友だちをたくさんつくろうと努力しました。文化祭の合唱コンクールで、2年生の時はクラスがまとまらず散々でしたが、3年生の時はみんなで力をあわせて金賞に。うれしくて、リーダーの子とがっちり握手したことを覚えています。

中学校時代は、なににも積極的にになり、心身ともに成長した時期でした。



卓球は中学以来やっています。写真は高校の校内卓球大会

筋トレなどで身体を鍛え、心身とも成長した中学校時代